

重症心身障がい児・者等実態調査及びアンケート調査の結果について

1 重症心身障がい児・者等実態調査等の調査目的等

- (1)調査目的 本県の重症心身障がい児・者(超重症児・者、準超重症児・者を含む)の実態調査を行い、今後の入所や在宅での支援を検討するための基礎資料とする。
- (2)調査時期 平成27年6月～7月(6月12日発送、7月31日締切) ※調査時点:平成27年4月1日
- (3)調査種別 ①県内の病院等への実態調査と②重症心身障がい児・者等へのアンケート調査

2 重症心身障がい児・者等実態調査

(1)重症心身障がい児・者【回収率71.6%】(県内の病院等422機関に対し調査依頼したところ、302機関から回答があった。)

①性別、年代 …… 重症心身障がい児・者は「19～39歳」で最も多く、次いで「40～64歳」が多い。

	0～6歳	7～18歳	19～39歳	40～64歳	65歳～	合計
男性(人)	41	48	91	75	17	272
女性(人)	41	65	92	91	27	316
合計(人)	82	113	183	166	44	588
割合(%)	14.0	19.2	31.1	28.2	7.5	100

②居住地、入院・在宅の別 …… 重症心身障がい児・者は「盛岡圏域」で最も多い。

	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	県外等	合計
入院(人)	99	45	30	38	18	10	15	6	10	5	276
在宅(人)	153	50	25	32	8	10	14	7	13	0	312
合計(人)	252	95	55	70	26	20	29	13	23	5	588
割合(%)	42.9	16.2	9.4	11.9	4.4	3.4	4.9	2.2	3.9	0.8	100

※重症心身障がい児・者(大島分類「1～4」に該当するもの)

(2)超重症児・者及び準超重症児・者【(1)の再掲】

【回収率71.6%】(県内の病院、診療所等422機関に対し調査依頼したところ、302機関から回答があった。)

①性別、年代 …… 超重症児・者、準超重症児・者ともに「19～39歳以上」で最も多い。

	0～6歳		7～18歳		19～39歳		40～64歳		65歳～		合計	
	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超
男性(人)	4	11	11	13	14	15	2	10	3	5	34	54
女性(人)	8	9	10	16	13	20	6	7	0	2	37	54
合計(人)	12	20	21	29	27	35	8	17	3	7	71	108
割合(%)	16.9	18.5	29.6	26.9	38.0	32.4	11.3	15.7	4.2	6.5	100	100

②居住地、入院・在宅の別 …… 超重症児・者、準超重症児・者ともに「盛岡圏域」で最も多い。

	盛岡		岩手中部		胆江		両磐		気仙		釜石		宮古		久慈		二戸		県外等		合計	
	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超	超	準超
入院(人)	15	12	3	8	2	6	4	12	2	1	0	1	0	0	0	0	2	1	1	1	29	42
在宅(人)	18	30	5	12	10	0	6	12	2	2	1	1	0	4	0	1	0	4	0	0	42	66
合計(人)	33	42	8	20	12	6	10	24	4	3	1	2	0	4	0	1	2	5	1	1	71	108
割合(%)	46.5	38.9	11.3	18.5	16.9	5.6	14.1	22.2	5.6	2.8	1.4	1.9	0	3.7	0	0.9	2.8	4.6	1.4	0.9	100	100

※超:超重症児・者(判定スコアが25点以上で、介助によらなければ座位が保持できず、かつ特別の医療的管理が6月以上継続の状態)

準超:準超重症児・者(判定スコアが10点以上であって、超重症児・者を除く)

(3)重症心身障がい児・者、超重症児・者及び準超重症児・者への対応 (入院・外来) 【単位:機関数】

	病院	医療型 障害児 入所施設	福祉型 障害児 入所施設	障害者支 援施設	障害児支 援事業所	障害福祉 サービス 事業所	訪問看護 事業所	特別支援 学校	合計
照会数	91	5	5	48	73	105	82	13	422
回答数	68	5	3	35	53	62	63	13	302
重症心身 障がい児・者	15	5	1	17	30	26	19	10	123
超・準超 重症児・者	9	4	0	0	7	6	14	7	47

3 重症心身障がい児・者等の現状及びニーズに関するアンケート調査

(1)アンケートの対象と方法

平成27年4月1日現在、①岩手県が交付した療育手帳(A判定)と身体障害者手帳(肢体不自由1級又は2級)の両方を所持している方(639名)、または②(①以外で)①と同様の障がい(重度の知的障がい及び重度の肢体不自由が重複)のある方とし、医療機関(岩手医大等)からの協力を得ながら調査を進めた。各人が調査票に記入後、返送する方法で、障がいのある方ご本人の状況、施設入所の希望、現在利用しているサービス、今後希望するサービス、相談できる人や機関等について調査したものであり、376名(うち、①手帳の両方の所持者による回答:358名、②医療機関からの協力を得ての回答:18名)の方々から回答があった。

(2)アンケート結果

①医療的ケアの状態

24.5%が医療的ケアを実施しており、うち、「経管栄養(経鼻・胃ろうを含む)」が18.4%で最も多く、次いで「たん吸引」が16.0%であった。

②介護

- ・主な介護者は「母親」が86.5%で、「父親」は2.9%であった。また、主な介護者の平均年齢は53.5歳であった。
- ・主な介護者の代替ケアに係る対応は「家族に依頼」が57.1%、「短期入所(ショートステイ)」が42.9%であった。

③居住場所

- ・現在の居住場所は「病院・施設」が54.5%、「自宅・その他」が45.2%で、「自宅・グループホーム・その他」と回答した方(170人)のうち、重症児(者)施設への入所について「入所を希望する」が8.2%(14人)、「ゆくゆくは入所を希望する」が60.0%(102人)、「入所を希望しない」が24.7%(42人)となっている。
- ・入所希望者のうち、「施設入所を希望する理由」として「介護者の高齢化」(50.6%)を挙げている。

④サービスの利用・希望状況

「短期入所(ショートステイ)」、「日中一時支援」について、現在(H27.4時点)の平均利用状況と今後の平均利用希望についての回答結果。今後の平均利用希望(1か月あたり)については、無記入が多かったが、調査項目の自由記載欄(⑤に記載)で生活するうえでの困り感や今後の必要なサービスについての回答が得られた。

	平成27年4月の平均利用状況			今後の平均利用希望(1か月あたり)		
	回答人数	日数	時間	回答人数	日数	時間
居宅介護(ホームヘルプ)	32	10.3	23.2	14	8.2	5.8
重度訪問介護	11	5.9	26.2	11	3.1	2.2
行動援護	5	1	8.2	4	2.0	4.8
重度障がい者等包括支援 ※本県指定なし	3	5.7	30.2	7		
生活介護	64	13.9	21.0	14	14.7	39.1
児童発達支援・放課後等デイサービス	29	15.4	16.7	11		
短期入所(ショートステイ)	52	5.3	3.2	40	3.1	5.6
日中一時支援	45	5.0	9.2	22	3.5	2.3
訪問看護	14	5.5	6.8	11	6.2	4.3
訪問リハビリテーション	16	6.5	5.9	18	5.1	5.6
共同生活介護(ケアホーム)	1			10		
共同生活援助(グループホーム)	5			9		
医療機関	41	2.7		7	3.4	2.9
相談支援	10	0.2	34.1	2	0.5	

⑤生活する上で困っていること、必要なサービス 【自由記載】

- ・日中一時支援、短期入所(ショートステイ)等の充実(定員不足、地理的問題、緊急時の対応) (33)
- ・入院(所)可能な施設の充実(親亡き後に利用可能な施設) (25)
- ・介護者の高齢化等による今後の生活への不安(6)
- ・相談先の明確化、災害時の相談対応の充実(6)
- ・医療的ケアができる看護師等の不足、訪問看護の充実(5)
- ・重症児への対応が可能な医療機関の充実(4)
- ・特別支援学校卒業後の受入先の不安(3)